

総合計画実施計画（平成22～24年度）策定方針

1 策定の趣旨

この計画は、市民が日々の生活に安らぎを感じ、希望を持って暮らせる都市として、本市が今後も持続的に発展していけるよう、社会環境に的確に対応しながら計画的で戦略性の高い行政経営を展開していくため、「第5次宇都宮市総合計画」の内容を今後どのように実施していくかを明らかにし、もって予算編成及び事務執行の指針とするために策定する。

2 計画の構成と期間

構成：事業計画及び財政計画

期間：平成22年度から平成24年度までの3か年

3 今回の計画の位置付け

今回の実施計画は、「第5次宇都宮市総合計画基本計画」の前期5年（平成20～24年度）の最終年となる平成24年度を含んだ計画となる。

そのため、市民生活や経済の安定といった喫緊の社会的課題を克服しながら、基本計画において掲げた「まちづくり戦略プラン」など、まちづくりの目標の達成の見込みを明らかにするとともに、その実現に向けた“シナリオ”となる計画とする。

4 現状認識と基本的な考え方

（1）社会経済情勢

国は「経済財政改革の基本方針2009」、いわゆる“骨太の方針”において、わが国が直面する課題として、世界的な不況や、それに端を発した財政悪化・失業増加などの「経済の危機」と、少子高齢化の進行や、格差の拡大傾向などの「社会の危機」を掲げている。

本市においては、バランスのとれた産業構造や、平成27年まで増加すると推計される人口構造などの強みを有しているものの、こうした「危機」による影響は例外ではない。

これらの課題を早急に克服しつつ、将来に目を向けた都市づくりに努めていくことが必要である。

（2）本市の財政見通し

歳入において、財源の根幹である市税は、平成21年度において減収となり、平成22年度においても、更なる減収が見込まれる一方で、現時点においては、以降の急激な税収の回復は見込めない状況である。

歳出においては、少子高齢化や景気の悪化を反映し、医療や介護、福祉などの社会保障関係経費などが引き続き増加していく見込みであるとともに、本市がこれまで計画的に進めてきた、(仮称)第3図書館の建設、雀宮駅周辺地区の整備などが大詰めを迎える。

このため、今回の計画においては、限りある行政経営資源の戦略的な投資配分を検討するとともに、緊急性、重要性の観点から真に必要な施策・事業を厳しく選択していく必要がある。

(3) 持続可能な都市を目指して

国内が等しく「経済の危機」や「社会の危機」に直面し、それらに伴う厳しい財政状況などにより、都市の活力の維持が脅かされている。

しかし、こうした厳しい状況にあっても、都市の真の実力が問われるものであり、本市が元来から保有し、また築き上げてきた地域の資源を十分に活用し、創意工夫を図りながら、本市の魅力を磨き、存在感を発揮していくことで、活力ある発展が続く「持続可能な都市」を実現していくことが重要である。

5 施策・事業選択の考え方

前述の基本的な考え方を踏まえ、以下の点を基本として、緊急性や重要性、事業熟度などを見極めながら、重点的・優先的に取り組むべき施策・事業を「選りすぐり」、行政経営資源の「集中投資」を徹底する。

(1) 総合計画の実現に向けて ……【別表参照】

第5次総合計画に掲げた「幸せ力」「ブランド力」「底力」をアップする3つの『まちづくり戦略プラン』を実現するため、10の『戦略プロジェクト』については、その目指す姿を具体的な取組とともに明らかにし、優先的・重点的に取り組む。

(2) 現行計画計上事業の原点からの見直しについて

現行の実施計画(平成21～23年度)を基本としながらも、今年度の計画策定においては、市民ニーズや社会経済情勢に配慮しつつ、所期の事業目的、事業効果についての厳密な検証を行い、継続実施の必要性をはじめとして、事業内容の再構築など、原点から見直す。

(3) 将来を見据えた“ネットワーク型コンパクトシティ”形成の促進

本市においても現在の経済危機の影響は例外ではないが、将来的な都市の活力や成長力の礎となる都市基盤は着実に形成していく必要がある。

本市は、そうした都市基盤の姿として、都市的機能と自然環境が調和した持続可能な都市空間「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成を目指し、現在、新たな「都市計画マスタープラン」や「中心市街地活性化基本計画」の策定に取り組んでいるが、そうした計画の検討を踏まえながら「拠点化の促進」や「ネットワーク化の促進」に資する施策・事業を、優先的に選択する。

(4) 都市ブランドの形成

本市においては、多くの人や企業に選ばれ、持続可能な都市として発展し続けるため、全市一丸となって本市の価値や魅力を高めるブランド戦略を今年度から本格的に進めており、今後は、市の内外において「宇都宮ブランド」の確立を図っていく必要がある。

そのため、以下のような施策・事業を、優先的に選択する。

- ・地域の資源やアイデアを活用し、宇都宮らしさや独創性・独自性があり、「宇都宮オリジナル」や「宇都宮モデル」として全国に誇れる事業
- ・宇都宮の新たな魅力を発掘したり、観光、産業、歴史、文化、人材など様々な資源を複合的に組み合わせることにより、本市の更なる魅力向上に取り組む事業

6 策定にあたって配慮すべき事項

より効果的で質の高い行政サービスの実施と提供を実現するため、全ての事業において下記の視点からの検討を行い、計画を策定する。

(1) 成果と効率性を追求した行政経営

- ・今年度から拡充した行政評価（事務事業評価・施策評価・政策評価）での検証結果を活用しながら施策・事業の優先化・重点化を徹底するとともに、類似重複事業の統廃合や、事業量の平準化・ペースの見直し等の調整に取り組む。
- ・また、新規事業については、スクラップ・アンド・ビルドを行った上で、計上することを原則とする。
- ・既存施設の多目的利用や、用途の見直し、長寿命化などを進めるとともに、未利用の土地や施設など既存ストックの最大限の有効活用に努める。

(2) 市民協働と事業主体の最適化

- ・「公共」の領域における役割分担が、ますます多様化する中で、行政でなければ対応し得ない、行政が実施する必要がある事業かどうかを精査しながら、市民・NPO・民間事業者などとの協働によるまちづくりを更に進めていく。

(3) 既存事業の再構築

- ・新規事業の検討のみならず、本市がこれまで継続的に取り組んで来た既存事業についても、市民ニーズや時代のすう勢を迅速かつ的確に反映し、創意工夫を尽くしながら事業の仕組みを検討することで、最少の投資による事業効果の最大化を目指す。

7 策定スケジュール

1 1月まで	計画案の作成
1 2月	計画決定

【 まちづくり戦略プランの体系 】

くらしいきいき
まちキラキラ
つながる人☆夢のみや
うつのみや

◆戦略Ⅰ うつのみや“幸せ力”アップ戦略

- Project. 1 家庭から地域・社会へとひろげよう！ 子どもたちの“笑顔の輪”拡大プロジェクト
- Project. 2 培った豊富な経験・知識・技術を生かす！
“げんき高齢者パワー”地域づくり応援プロジェクト
- Project. 3 地域がひとつになってつくる！ “安全社会・安心生活”創出プロジェクト
- Project. 4 ひとがふれ合い、ひとと都市と地球環境が調和する！
“モビリティのり・デザイン”プロジェクト
- Project. 5 “もったいない”の精神で築く！ 「持続可能な都市」形成プロジェクト

◆戦略Ⅱ うつのみや“ブランド力”アップ戦略

- Project. 6 将来の「道州」の中心的都市へ！
50万都市の中核機能・交流機能強化、活力向上プロジェクト
- Project. 7 うつのみやの魅力や個性を磨く！ 都市ブランド確立・アピールプロジェクト

◆戦略Ⅲ うつのみや“底力”アップ戦略

- Project. 8 人間力がすべての源！ 気はやさしくて力持ち“宮っ子スピリット”養成プロジェクト
- Project. 9 うつのみやの発展と活力の源！ 産業力底上げ“未来産業創造”プロジェクト
- Project. 10 市民・事業者・行政のパートナーシップがうつのみや躍進の原動力！
みんなで作る“大好き地域”創造プロジェクト